

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	勝谷 紀子	所属	青山学院大学
研究会等名称	難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 13 名(うち認定心理士 2 名) 非会員 7 名(うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>日本では、身体障害者手帳を取得している聴覚障害者の他に、潜在的には数百万から1千万人程度もの難聴者がいると推測されている。しかし、難聴を持つ本人が聞こえの問題を自覚していないこと、周囲に明らかにしていないこと、難聴が外から見えにくい障害であることなどから、難聴者が抱えるさまざまな困難、心理学的問題が理解されにくいという現状がある。</p> <p>本研究会は、「聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分でないことから生じる心理学的問題を考えること」を目的としている。研究会メンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者が主なメンバーとなっている。</p> <p>2015年度は、昨年度に引き続き、メーリングリストを通じて会員同士が議論、情報交換を行い、難聴者のもつ心理学的問題について考えた。具体的には、難聴や難聴者についての理解が乏しく、さまざまな誤解があるという問題があげられる。そこで、難聴者の理解がどのような現状であるか、理解を深めるにはどうしたらよいかを議論した。</p> <p>活動の成果は、2015年度の日本心理学会第79回大会の公募シンポジウム「難聴・難聴者への理解を深めるためには(2): 難聴者への偏見を中心に」において報告した。公募シンポジウムには、本研究会の会員のほか、社会心理学の立場からステレオタイプについて基礎研究を行う研究者も登壇した。シンポジウムの開催により、難聴にまつわるさまざまな問題について情報交換を行うことができた。</p> <p>今年度は、難聴者への心理的な支援のあり方について、当事者や支援者から意見聴取をしたり、調査や実験を行ったりすることによって検討する予定である。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
難聴者の心理学的問題を考える会				
研究集会開催日： 2015年9月22日(火)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	勝谷紀子	青山学院大学	○	○
2	鳥越隆士	兵庫教育大学	○	
3	名畑康之	北海道大学	○	
4	栗田季佳	三重大学	○	
5	石井国雄	清泉女学院大学	○	
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2016年 3 月30日

日本心理学会研究会 2015 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 研 15021

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2016年3月23日	印刷代（前代表故山口利勝先生の講演録の印刷）	¥30,000
2016年3月23日	振込手数料	¥540
2016年3月24日	郵送費	¥82
支出合計		¥30,622